

## 「福生第五小学校の共存・共生を根付かせる環境教育」

東京都 福生市立 福生第五小学校 文・写真

### ●福生第五小学校について

本校は、昭和44年に開校し、今年で56年を迎えます。学区には、多摩川や玉川上水（熊川分水）、河岸段丘を見ることができ、自然環境に恵まれた地域です。

また、本校は昭和47年に東京都愛鳥モデル校の指定を受け、今年で53年目を迎えます。その間途切れることなく、学校を取り囲む自然環境を生かした愛鳥活動や自然保護活動が脈々と受け継がれてきました。

### ●福生第五小学校の特色ある学校づくりについて

本校は、全校児童で5月に「春の野鳥観察会」、1月に「冬の野鳥観察会」を行い、9月に「秋の自然観察会」を行っています。また、第4学年から第6学年までを対象に、学期に一回、鳥の画像から名前を答える「愛鳥博士テスト」、さらに、その合格者を対象に年一回、鳥の鳴き声から名前を答える「スーパー愛鳥博士テスト」を実施しています。

#### (1) 野鳥観察会（春、冬）

学校付近の多摩川を訪れ、季節に応じた野鳥を観察し、見つけた野鳥の種類や数、その場所等を観察記録紙に記入します。各学年の発達段階に応じて、見つけ



写真1 観察会の様子

やすさの難易度で「めあての鳥」を設定し、目的をもって観察に取り組むことができるようにしています。事前にめあての鳥の特徴等について調べる活動や、高学年の愛鳥自然委員会による、観察会の事前集会により、どの児童も高い関心をもって観察会に参加しています（写真1）。

#### (2) 自然観察会（秋）

第1学年から第3学年までは、多摩川沿いの広大な芝生広場で、昆虫の観察と採集を行います。第4、5学年は、ライフジャケットを着用し、多摩川中流域の浅瀬で茂みを揺らして水生生物を捕獲する「ガサガサ」を行います（写真2）。第6学年は、前年度の6年生が作成した巣箱のリレーを受け継ぎ第5学年の冬に設置した校庭の巣箱を外してその様子を観察し、野鳥の生活の軌跡を学習します。

#### (3) 愛鳥博士テスト・スーパー愛鳥博士テスト

愛鳥博士テストは、入学時に全児童に配布される「愛鳥下敷き」に掲載されている約70種類の野鳥から、45種の野鳥が出題されます。その画像を見て名前を当てるテストです。スーパー愛鳥博士テストは、鳥の鳴き声で名前を当てる非常に高度なテストです。合格者は、全校児童の前で認定証とバッジが贈呈されます。野鳥観察会に向けて鳥の名前を覚え、愛鳥博士テスト



写真2 水生生物を捕獲する「ガサガサ」の様子



写真3 巣箱を設置している様子

の前に合格を目指し、休み時間等を利用して繰り返し復習する姿が見られます。

野鳥、昆虫、川の生物等が豊かな自然を育み、自分たちの生活に恩恵を与えていることを実感することで、自然や生命への畏敬の念が育ってきます。

これらの活動は、本校の卒業生でもある、地域のNPO法人自然環境アカデミー代表理事 野村 亮氏が全面的に関わってくださっています。野村氏自身も、この福生第五小の愛鳥活動をきっかけに自然環境に興味をもち、現在の生業につながっているという経緯があります。野鳥観察会では、当日のガイドや、事前指導にも積極的に参加して下さり、自然観察会では、ライフジャケットの手配や人員の確保等の運営にも協力してもらっています。また、愛鳥博士テストの監修にも協力をいただきました。

### ●野鳥にとって優しい活動

本校には、すぐ側を流れる多摩川や校舎裏のハケからたくさんの野鳥が訪れます。朝は、キジバトやムクドリ、セグロセキレイ等多くの鳥が校庭の芝生や木々に集い、水泳指導期間外のプールには、カルガモのつがいがゆっくりと羽を休めている姿が見られます。また、体育館での全校集会時には、窓の外をゴイサギが悠々と飛んでいくこともありました。

児童は、カラスを見ると「カラス」ではなく、くちばしや行動の特徴に着目し、「ハシブト」「ハシボソ」とカラスの種類で名前を言います。児童にとって、愛

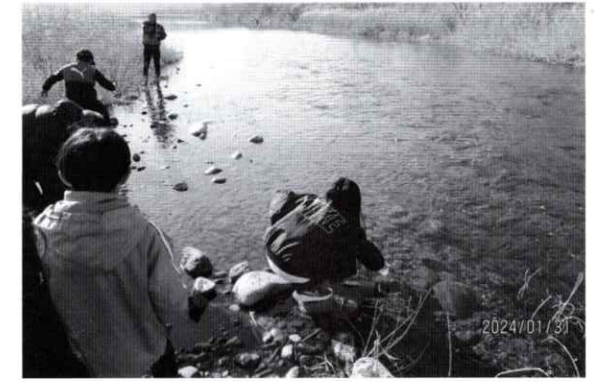


写真4 多摩川での清掃活動

鳥活動は日常生活に浸透しており、本校の特色ある教育活動と野鳥は切っても切り離せない関係にあるといえます。

福生第五小学校が、野鳥にとって優しい環境を保つために、校庭の芝生等には、化学薬品による除草は行わず、野鳥が安心してえさや草の新芽をついばむことができるようにしています。また、ムクドリやスズメが天敵から身を守り安全に産卵及び子育てができるように、毎年、前年度の6年生が作った手作りの巣箱を5年生が受け継ぎ、12か所設置しています（写真3）。

そして、SDG sを教育活動に位置付け、環境教育にも力を入れ、野鳥にとって優しい活動となるために、多摩川での自然観察会の際には近隣のごみ拾いも行い、身近に見られる野鳥の生息地や生態系を守る活動にも取り組んでいます（写真4）。

児童は、自分たちの生活する地域で、たくさんの野鳥がいつまでも元気な姿を見せてくれるようにという思いをこめて熱心にごみ拾いに励んでいます。

その他にも、魚がたくさん住めるところには鳥もたくさん集まってくるということから、ヤマメの卵を孵化させ稚魚を放流する活動も行っており、川の環境保全に取り組んでいます。

福生第五小学校では、野鳥との共生・共存を意識して愛鳥活動や、自然環境保護活動に取り組んでいます。

(福生第五小学校の愛鳥活動について  
福生第五小学校ホームページ)

